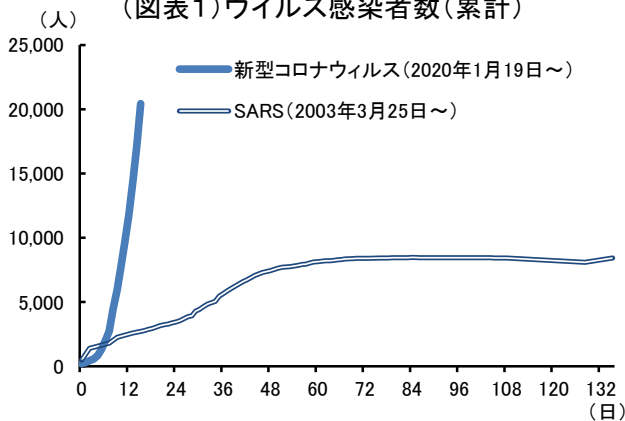


## 新型コロナウイルスがアジア景気に及ぼす影響

— 2003年SARS発生時よりも大きく下振れる見込み —

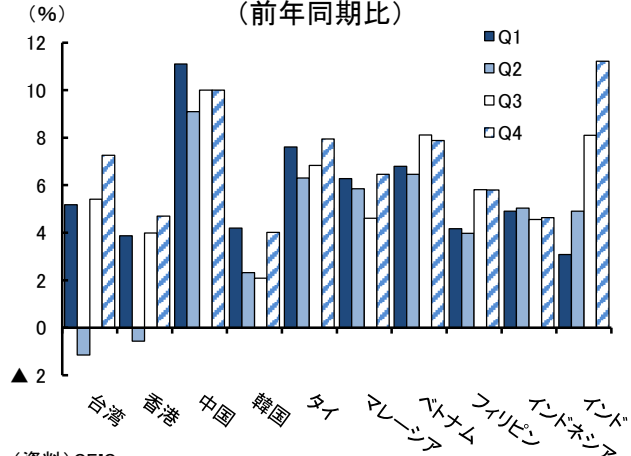
- (1) 新型コロナウイルスが急速に拡大（図表1）。感染者数は既に2003年のSARS（重症急性呼吸器症候群）を上回る状況。SARSが発生した2003年は香港、台湾がマイナス成長に（図表2）。アジア経済に対して、①中国からの旅行者数の減少、②中国向け輸出の減少（中国国内景気の減速、製造業の活動停滞）を通じてSARS発生時よりも大きな影響を与える公算大。
- (2) 中国からの旅行者数の減少は、香港、タイの1～3月期成長率を大きく下押しする見込み（図表3）。中国からの旅行者が半減すると仮定すると、1～3月期のGDPをそれぞれ2.0%（デモによる下落分を除く）、1.6%押し下げ。ともに、前年同期比でマイナス成長に陥る可能性も。特に、香港については2年連続での年間マイナス成長も否定できず。
- (3) 中国当局は多くの企業や学校の再開延期、道路の閉鎖、飲食店や観光名所の閉鎖を実施。日用品を除き消費活動の低迷が避けられない状況。中国の1～3月期成長率は前年同期比+5.0%と、19年10～12月期の+6.0%から大きく低下すると予想。輸出の中国依存度が高い台湾、ベトナム、マレーシアへ悪影響は大きい（図表4）。中国向け輸出が10%減少した場合、1～3月期のGDPをそれぞれ1.4%、1.1%、0.9%下押しする見込み（中国向け輸出の付加価値率を60%と仮定）。また、中国の一部地域では工場の操業を禁止するなどの措置を実施。現時点では2月10日からは操業開始の様相だが、範囲拡大や延長となれば、アジア圏の製造業生産活動に更なる悪影響をもたらす可能性。

（図表1）ウイルス感染者数（累計）



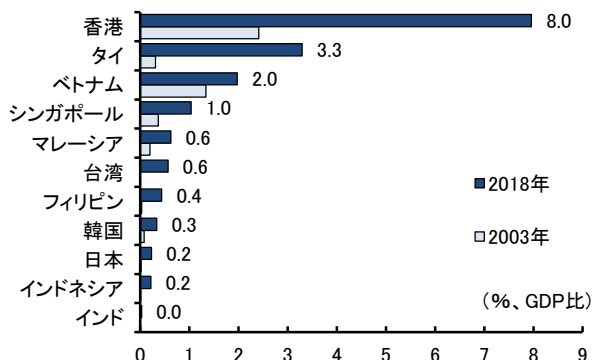
（資料）中国国家衛生健康委員会(NHC)、世界保健機関(WHO)  
（注）SARSについては、感染者は8,422人、死者数は916人に（期間は2002年11月～2003年8月7日）。

（図表2）2003年アジア実質GDP成長率（前年同期比）



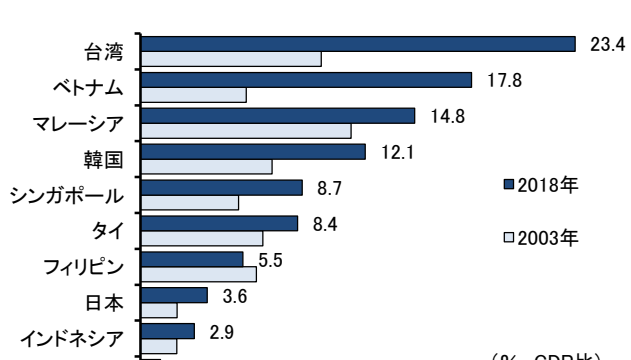
（資料）CEIC

（図表3）中国からの旅行サービス受取（GDP比）



（資料）IMFを基に日本総研作成  
（注）国際収支統計のサービスにおける旅行の受取に中国人旅行者数の全体に対する割合を乗じて算出。ベトナムは旅行者数と旅行者単価を基に日本総研推計。

（図表4）中国・香港向け輸出（GDP比）



（資料）IMF、UN、CEICを基に日本総研作成